

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成17年3月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成18年2月分(平成18年1月30日~2月26日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6,823	14.83	15.69	▲	12	ヘルパンギーナ	5	0.02	0.07	
2	RSウイルス感染症	133	0.46		▲	13	麻疹	0	0.00	0.05	
3	咽頭結膜熱	64	0.22	0.18	◁	14	流行性耳下腺炎	527	1.83	0.83	◁
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	511	1.77	1.09	▲	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
5	感染性胃腸炎	3,567	12.39	11.68	▷	16	流行性角結膜炎	99	1.30	1.05	▷
6	水痘	603	2.09	1.76	◁	17	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	12	0.04	0.13	▲	18	無菌性髄膜炎	6	0.07	0.03	
8	伝染性紅斑	64	0.22	0.18	◁	19	マイコプラズマ肺炎	7	0.08	0.18	
9	突発性発疹	153	0.53	0.64	◁	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	4	0.01	0.01		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風疹	0	0.00	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
▲	▲	▷	◁
▼	▼	◁	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	43	72	19	23	21	178

定点把握（月報）五類感染症

平成18年2月分（2月1日～2月28日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	34	1.48	1.88	◇	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	101	4.81	6.08	⇒
23	性器ヘルペスウイルス感染症	6	0.26	0.51		27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	35	1.67	2.41	◇
24	尖圭コンジローマ	11	0.48	0.43	⇒	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.22	
25	淋菌感染症	12	0.52	0.70	◇	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

手足口病

急増（1月6件 2月12件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

- 一類感染症 発生なし
- 二類感染症 1件【細菌性赤痢 1件（尾三地域保健所管内）】
- 三類感染症 4件発生【腸管出血性大腸菌感染症 { O157 4件（福山市保健所管内1件，東広島地域保健所管内3件） }】
- 四類感染症 1件発生【A型肝炎 1件（福山市保健所管内）】
- 全数把握五類感染症 3件発生【梅毒 1件（広島市保健所管内）
破傷風 1件（尾三地域保健所管内）
クロイツフェルト・ヤコブ病 1件（広島地域保健所管内）】

3 一般情報

【今シーズンのインフルエンザの流行状況について】

今シーズンのインフルエンザは昨シーズンと比べて流行の開始が早く始まりました。

5 0 週（昨シーズンは17年4週）で流行の開始の目安となる定点医療機関あたりの患者数が1人を越えたため、12月22日に「県内のインフルエンザの流行状況について」資料提供を行い、注意喚起を図りました。

更に、第52週で定点医療機関あたりの患者数が10人を越えたので、1月6日にインフルエンザ注意報を発令し、第2週には患者数が急増し30人を越えたため、1月19日にインフルエンザ警報を発令しました。その後第4週に流行のピークを示しましたが、以降急な減少に転じ、第9週で県内全ての保健所ごとの定点医療機関当たりの患者数の平均が10人を下回ったので、3月13日インフルエンザ警報を解除しました。

この間に報告された患者数の累計は20,963人と、ほぼ平年の患者数となっています。このままインフルエンザの流行は終息に向かうものと考えられますが、引き続き「手洗い」及び「うがい」の励行など一般的な健康管理を県民に呼びかけています。

今シーズンのインフルエンザウイルスの流行型はA香港型が主流でしたが、一部でAソ連型も確認されています。

なお、小学校、中学校等の集団かぜについては、第3週をピークに報告数は減少しています。3月14日までに施設数累計82校（園）、患者数累計5,483人報告されていますが、昨シーズン同期は114校（園）、8,760人、昨シーズンは第9週ごろまで多く推移したことも考慮すると、今シーズンの集団かぜの発生は少ないものとなっています。

集団かぜの表及び流行のグラフは広島県感染症情報センターのH・Pをご覧ください。

http://www.pref.hiroshima.jp/hec/hidsc/kansen_wadai/zyouhou/inf_syudan.html

【今後注意すべき感染症について】

これから夏に向けて、手足口病、伝染性紅班の発生が増加し注意が必要です。

【手足口病】

病原体は、数種類のエンテロウイルスを原因とし、感染経路は、飛沫感染、糞口感染、水疱内容の直接感染によることが知られています。

感染後、およそ3～5日で発症し、症状は、口腔粘膜及び四肢末端に現れる水疱性の発疹が特徴で、手足の全体、肘や膝あるいは臀部周辺に多数現れることがあります。発症者の約1/3に軽度の発熱がありますが、高熱が続くことは通常なく、基本的には数日のうちに自然治癒する予後が良好な疾患です。

【伝染性紅班】

病原体はヒトパルボウイルスB19で、感染経路は飛沫感染、接触感染が知られています。

症状は感染後約1週間で希にかぜ様の症状を示し、その数日後から、両頬に蝶形の紅班を生じ、丘疹となる場合があります。このような症状から、リンゴ病ともいわれています。成人が感染した場合は、しばしば関節炎の症状を示します。

発症した場合、投薬的な治療法はなく、対症療法が行われます。

妊婦が感染すると、約70%で胎児に水腫や流産の原因となることがあり注意が必要です。妊婦の方は流行期には人ごみを避け、手洗いの励行など、一般的な対策をとる必要があります。